

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスで職員全員で話し合い、ケアについての統一を図っています。	本人、家族に必ず理念を説明してから利用契約を結んでいる。外部からの研修者、ボランティア等には理念を具体的に説明している。理念を廊下の壁に掲示し、隔月発行の「まんでん通信」にも記載するなど、外部の方にホームの方針が分るよう取り組んでいる。利用者本位で、黒子になり、その人を下から後から支えるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、新聞を作成し回覧をお願いしています。	ホームの地元は広範囲の地区であるので隣組との交流が主である。「まんでん通信」を回覧板で廻し、住民にホームの活動を伝えている。ドンド焼きへの誘いの声が掛かり利用者とかけている。3月には地元の高校生の体験学習の受け入れがある。地域のボランティア(フラダンスや日舞、二胡や大正琴の演奏等)が訪問し利用者で交流している。また、民生委員を中心とした数名の方が窓拭きや草刈りに訪れホームの整備に携わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で認知症関連講習会を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告をし、意見要望等を聞いています。	家族代表、総代、組長、民生委員、消防署職員、警察官、役場担当職員等が出席し、奇数月の25日前後に開催している。19時からの開催であり、利用者が会議中の小上がりの横のリビングに腰を掛けて聞いていることもある。地区役員は任期が3月までで引継ぎが行われる。ホームの活動報告や外部評価の自己評価も報告し、質問や意見を伺い、助言や情報を頂いている。水が乏しいため議題に上げ、水路を確保していただいたりもしている。外出傾向の方が在籍している時には地域の協力をお願いすることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時、担当者と連携をとっています。	利用者は町以外に隣接の市町村からも受け入れている。何かあれば市町村担当者と連絡を取り、相談している。介護保険の更新申請等は家族が中心に行っているが、依頼があれば代行もする。認定調査は市町村単位で来訪し調査が行われている。家族で同席する方は少ないので職員が立会い、本人の状態を伝えている。行政主催の事例検討会に出席し、困難事例などの対応策について情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習を、ケア会議等で行っています。 玄関にチャイムを付け、鍵はかけておりません。	毎年交替で職員が外部研修に出ており、復命書を提出し会議で伝達講習をしている。また、学習会やケア会議でも拘束をしないケアの意識づけをしている。身体拘束や行動制限は一切行われていない。一般家庭のようにチャイムを聞くと、玄関を開けて挨拶し招き入れている。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議等で学ぶようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、ケア会議等で復命しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族にアンケート等をお願いし、意見要望を出して頂いています。 訪問時にもお話を伺うようにしています。	家族会は定例化していないが地元の家族でホームに来ていただける方に家族代表をお願いしている。家族が来訪した時には本人の状態や様子を報告しながら意見・要望を伺っている。年1回家族アンケートとして請求書を送る時に要望を書き込む欄を設けたものを同封している。利用者に関しては言葉で訴える方が約半数ほどで、表情や態度で示しても言葉で言えない方も数名いる。運営に関する意見、要望等は検討し、運営に反映させている。看護師が常駐し、利用者の健康管理や相談にのっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を聞くようにしています。	職員の会議はカンファレンス(月1回の定例会議)、ミーティング(引継ぎ)、ケア会議(随時いる職員で話し合いや勉強会もする)がある。カンファレンスでは利用者一人ひとりのケアについて話し合ったり、研修報告、係からの報告、行事の検討などが行われている。係からの要望、業務に関する提案等は検討し運営に反映している。法人の人事異動は基本的にはない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調管理には十分注意しています。 研修会等にも参加できるよう声かけをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には出来る限り参加できるようにしています。 ミーティングでも報告しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等に参加して、学習会や交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指しています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で来所して頂き、本人の様子を見たり、ホーム内の見学をしたり、お話をしたりしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のお話(これまでの経緯など)をゆっくり聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の思いを聴きながら、必要としているサービス支援を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが笑ったり喜んだり、困ったりを感じ、協働するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族にも出来る限り来所していただき、御本人とゆっくり過ごせるようにしています。イベントを計画し、参加して頂くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いに出かけたり、来所していただいています。	来ていただくのを待つのではなく、出かける支援に取り組んでいる。友達や近所の方が訪ねてきて一緒にお茶のみをしている方もおり、電話や手紙で連絡あっている利用者もいる。以前から利用していた道の駅、雑貨店などに職員と一緒に買い物に出かけることもある。家族の協力を得ながらお正月やお盆に自宅への外出や外泊(連泊)をしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に入る時間以外は、共同スペースで職員も一緒にすごしています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外でお会いすると声をかけたりして、ホームに顔を出して頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録に、本人の仰った事などを書くようにしています。 センター方式などを利用し、アセスメントしています。	連絡ノートには家族は青、医療は緑、重要なことは赤で記録し、更に重要な事項には赤で下線を引いている。献立や入浴は希望を聞きながら支援している。訪問調査当日も「今日はこういう御飯です」と職員が伝えると「梅を漬けて欲しい」との希望があり、ウっかり忘れると「梅はないけ〜」と催促され場面もあった。誕生日を迎える利用者には食べたいものを伺い、希望の料理を出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族に出来る限り教えていただいたり、本人との話の中から聞き出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来ない事・嫌な事・嬉しい事などシートを使用し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスなどでケアの在り方など意見交換しています。 御家族にも連絡しています。	介護計画は日々のケアプラン実施表や本人の状態を職員に確認し、同じ法人施設のケアマネージャーの協力を得て作成している。見直しはケアマネージャーからの指示に沿って3ヶ月で行っている。モニタリングに関してはケアプラン実施表と個人ノート、全体ノート等を参考に意見を出し合い遂行状況を確認している。ケアプラン実施表に「×」が続けばケアマネージャーに連絡し、プランを手直しすることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の言葉、エピソードなど記入しています。ケアプラン実施表を記入し実践するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診など外出には柔軟に対応しています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域の消防、警察、民生児童委員などをお願いし、ホームの理解を頂き、協力して頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は御家族の要望に応じ、職員動向または、代行をしています情報提供もしています。	かかりつけ医は家族の要望(通院に付き添えないなど)で変更している。診察に関しては毎月1回往診のある方、家族が予約して受診する方、3ヶ月に1回職員が付き添い受診する方など様々である。歯科治療は依頼することで訪問治療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しています。24時間連携が取れるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し退院まで御家族、病院と連絡を密に取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う同意書を頂いています。	契約時に重度化に伴うホームの対応を説明し同意を頂いている。重度化した時には医師から説明を受けた後、改めて説明をし同意書を頂いている。看取り期間には基本的に家族の付き添いをお願いしている。開設以降6名の方が看取り支援を受けながら最期を迎えている。職員は急変時の対応に多少の戸惑いはあるが、看取り支援について十分理解し取り組むことができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練をしています。マニュアルなど表示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に避難訓練を行っています。連絡の確認も行っています。	年2回防災訓練を実施している。今年度は屋間の訓練に消防署の指導を受け、通報や避難誘導訓練、消火器の取り扱い訓練を行っている。また、通報装置が作動すると近所の2軒と職員の緊急連絡網にも自動的に回るようになっている。夜間想定訓練については防災訓練計画書を消防署に提出し、ホーム独自に行っている。飲料水や食品の備蓄は3年に1回交換している。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御本人の気持ちも大切に考え、自分にされたらどうか、言われたらどうかを常に心において声掛けをするようにしています。	家族に本人の馴染みの呼び方を伺い、苗字や名前に「さん」を付けている。元の職業から「先生」と呼ばれている方もいる。「利用者一人ひとりの人権と尊厳を守り、その生活が『その人らしく、より豊で、暖かくなりますように』が私たちの願いです」という理念を共有し実践につなげている。3ヶ所あるトイレの1つを男性専用にし、女性と分けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ表情を読み取ったり日々の会話の中で働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、それに合わせて生活していただくように希望を尋ねたり相談しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人は自分で選び着替えて頂いています。 出来ない人は一緒に着替えるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備し食事し、後片付けをしています。	利用者の力量により盛り付け、下膳などの作業に参加していただいている。おやつ作りには多くの利用者が参加できている。献立は以前栄養士が作成したものを参考にしていく。昼食、夕食は調理専門のパートの方が作っている。近所の方や家族から野菜、梨、リンゴ、キュウイ、フナの煮付け、漬物、梅などの多くの物を頂き、ホームの畑の野菜も加え調理し、テーブルに彩り良く並べ食欲を促している。訪問調査当日の昼食の味付け御飯をお代わりする方もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と、摂取量を把握し、好きな物や食べやすいものを出すようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしています。 歯科衛生士によるケアも必要に応じてしています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を取り支援しています。	排泄記録を参考に一人ひとりの排泄リズムや習慣を全職員で共有し支援している。また、プライバシーに配慮した誘導やトイレで排泄する時は職員が廊下に出て終るのを待っている。殆どないが、失敗してしまった利用者には「ちょっと行ってみる～」と声をかけ居室やトイレで対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を取り予防に心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定して入浴していただいています。	一日に3人、週2～3回入浴している。日曜日以外は毎日入浴が可能であり、毎日希望する方もいる。立位のとれない利用者を二人介助で行う時、職員は滑り止めを敷き、腰ベルトを着けて入浴支援に当たっている。入浴を拒む利用者には次の日に回すなどして無理強いはせず(時には揉んで、頼んで)少なくとも週1回の入浴につなげている。菖蒲湯、柚子湯、酒湯など季節の香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時に居室やこたつなど自由に休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスなどで様子を確認し、看護師と連携しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、楽しみごと等を見つけて、声掛けしてお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り戸外に出かけるように支援しています。(ドライブ、買い物、お花見 等)	天気の良い日や暖かい日にはホーム周辺を散歩したり、南側のポーチで日向ぼっこをし外気浴もしている。車で買い物に出たついでにドライブしてくることもある。行事外出として近くの公園の桜や藤の花見、花市、赤ソバ祭り、コスモス祭り等に出かけている。ぶどう園に出かけて試食し、更にブドウを買ってホームで食べることもある。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には使えられるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等希望があれば自由にお話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりしています。 温度・湿度計で管理しています。 利用者さんの声に耳を傾けています。	長室からは雄大な中央アルプスが望める。高台にあるので眺めも良く、開放感がある。一段高くした畳の小上がりもあり大きなコタツが造られている。壁にはふれあい広場へ出展した大きな貼り絵や近所の方から贈られた折紙細工、千羽鶴などが吊り下げられている。廊下には掴まらなくても良い、平形の手すりが付けられている。事務所横の壁には身体拘束排除・苦情受付、個人情報保護、グループホーム倫理綱領や行動指針等も掲示されている。正面玄関を含め3ヶ所に入口があり、万が一の避難口にもなっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置き場所づくりをしています。利用者さん同士居室の利用もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物品を持ってきて使用して頂いています。	各居室の入口には花が描かれたプレートを表札代わりに取り付けている。窓から中央アルプスや南アルプスが見える居室、運がよければホームの畑にやってくるサルを見ることが出来る居室と様々である。テレビ、大文字のカレンダー、誕生祝いのカード、家族写真、洋服、小物の飾り物なども持ち込まれている。自分らしさを出した物を飾ったり置くことで自分の城を造っているようにも感じられた。居室は「T字」風に配置されているので角度によっては全く入口が見えない居室もある。居室前の椅子に腰を下ろし人目を気にせず好きなことが出来るようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、スロープなど取り付けています。		